

経済学

3 題のうち 2 題を選択して解答してください。

解答用紙の冒頭の「第○題解答」欄に問題番号を記入してください。

- ある国(例えば発展途上国)のある市場(例えば鉄鋼産業)において、政府の認可を受けた企業が 1 社のみ存在するものとする。また、海外との取引は、禁止的関税などによって、実質的に行われていないものとする。
 - この企業の利潤最大化行動について、図と式を用いながら説明しなさい。
 - 政府が 1 社のみ認可を与える経済的・政治的根拠について、いくつかの産業を例に挙げながら論じなさい。
 - このような事例においては、政府と企業の間で癒着(レント・シーキングなど)が生じる場合がある。生じうる問題と、その対策について、可能な限り具体的に論じなさい。
- ある国のマクロ経済が次のように与えられているとする。

$$\begin{aligned} \text{国民所得} & Y = C + I + G \\ \text{消費関数} & C = 130 + 0.75Y \\ \text{今期の投資} & I = 170 \\ \text{今期の政府支出} & G = 200 \end{aligned}$$

この経済において、来期の投資が今期より 20 増加する場合、来期の国民所得を今期より 5 パーセント増加させるためには、来期において政府支出をどれだけ増加させれば良いか。空欄を適切な数字ないしは数式で埋めつつ解答してください。

まず、今期の国民所得を求める。

$$Y = 130 + 0.75Y + 170 + 200$$

① $Y =$ ② となることから、 $Y =$ ③ となる。

来期には国民所得を 5 パーセント増加させたいということから増加分は ④ となる。

また、来期には投資が 20 増加しているから、投資乗数により国民所得は、 $\Delta Y =$ ⑤ 増加する。

したがって、⑥ を政府支出の増加で補えばよいことになる。

政府支出乗数は、⑦ により $\Delta Y = 20$ とするのだから

$20 =$ ⑧ となり、⑨、つまり政府支出を ⑩ 増加すればよいことになる。

- 自由貿易を理論的に支える国際分業理論では「比較優位の原則」が最も基本的な概念となっているが、その比較優位のパターンが時間の経過によって動的に変化して行くことを説明するモデルもよく知られている。このモデルを特定の工業品を例に取りつつ説明してください。